

第467回 （6月定例）福崎町議会

福崎町長 橋 本 省 三

皆様おはようございます。第467回定例議会を招集いたしましたところ、多数ご出席いただき誠にありがとうございます。

平成28年度 6月議会の開会にあたりご挨拶申し上げます。

山や野の新緑が深く濃く映える季節となりました。いよいよ田植えも始まりました。本町の第一次産業の根幹である稲作の始まりに、早くも実りの秋が待ち遠しく思えます。

4月14日に発生した熊本地震は多くの住民の命を奪いました。今もまだ多くの方々が避難生活を続けられており、町としてもできる限りの支援を続けてまいりたいと思っています。

また、町内においては、ここ1か月の間に火災が相次ぎました。非常に残念ではありますが、この一連の火災でおひとりが亡くなられ、歴史ある仏閣が焼失しました。ご遺族、また地域住民の皆さんもさぞかしお辛いことと察しております。このような災害の経験は、決して無駄にせず、次に来る災害に教訓を生かしていかなければならないと認識を新たにいたしました。

さて、新年度が始まり、はや2か月が経過いたしました。5月3日には町制施行60周年記念式典を挙行し、福崎町の礎を築かれた先人の努力に感謝と敬意を表し、各分野で、ご支援いただいた、功労者の皆様の功績を称え、表彰を行いました。

町の産業に目を向けますと、特産もち麦においては、その効能が3月にフジテレビの全国放送で取り上げられ、NHKでの放送以上の反響がありました。ダイエット効果があると報じられたこともあり、もちむぎ精麦を買い求める方が急増し、在庫量を確保するための販売調整が必要となるなど、大変な盛況ぶりであります。

昨日、銀の馬車道ネットワーク協議会が開催されました。日仏協会の白井さんをはじめ多くの女性の方から、もちむぎ精麦を求め、もちむぎのやかたを訪れる機会が増えたといいました。

町の重点事業では、福崎駅周辺整備事業である道路事業、都市再生整備事業を県土地開発公社及び県・町土地開発公社の協力を得ながら引き続き推進してまいります。

また、県道甘地福崎線の県施行区間である湯口踏切から南へ約70mの区間については、28年度末の完成に向けて取り組んでいただくことで調整が図られました。

安全安心のまちづくりでは、県と協力して、桜上池のため池整備や田口谷川等の砂防ダムの整備に取り組んでまいります。また、引き続きイマ谷池の下流水路や国道312号の冠水対策である高橋ハス池の下流水路の整備も推進してまいります。

福祉の分野では、平成37年を目途に、住み慣れた地域や自宅で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築が求められています。この基礎となる、認知症施策推進事業、生活支援体制整備事業、在宅医療・介護連携推進事業のすべての事業について、平成29年4月開始に向け、体制整備を進めているところです。医療・介護を見据えた、住み慣れた環境で安心して暮らせる社会を構築するため、公助は言うに及ばず、自助、共助の観点での生活を維持するための方向性を探ってまいります。

地方を取り巻く財政環境は厳しい状況にあります。3月議会において総合戦略を採択していただき、新たな財源としては地方創生推進交付金が創設されました。国では、総合戦略に合わせた特色ある事業には重点配分がありますが、今までのような全体での経済対策等の配分が無くなってまいります。地方の創意工夫の良し悪しでその配分が決定されることから、知恵のない場合は配分も無いということです。この事柄については、4月末に通知があり、5月中旬に相談会が開催され、その2日後には方向性を提示しなければならない厳しいスケジュールの中で、6月補正予算に計上することが補助採択の条件の一つとされています。本来でしたら6月補正予算は災害等緊急を要する事業の予算が計上されるものですが、本年はこのような事情により、地方創生関連予算を今議会に計上しております。地方経済対策や少子・高齢化、人口減少などの本来国がすべき対策を地方の責めにおける事業で対応させようとする方針に対応しようとするものであります。